

叡山電鉄観光列車「ひえい」について

1. はじめに

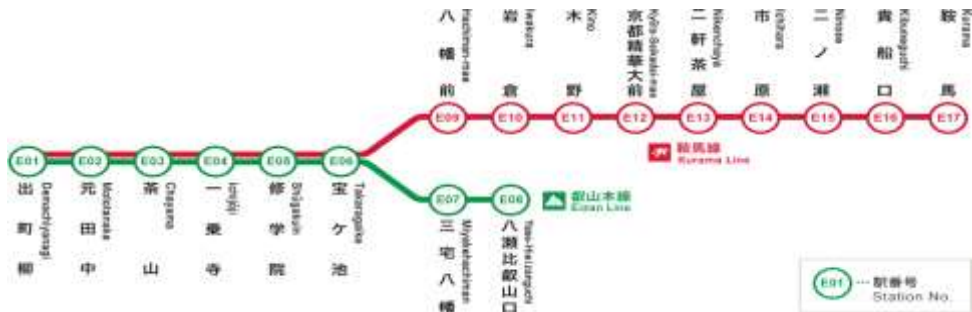
みなさんは滋賀県の比叡山へ観光に行ったことはありますか？

最澄が天台宗を開いた延暦寺で有名な場所です。今回はそんな比叡山のふもとである八瀬比叡山口と京都の出町柳を結ぶ手段である叡山電鉄の本線を走る新しい観光列車「ひえい」について紹介します。

2. 「ひえい」のはじまり

そもそも「ひえい」は京都中心部から八瀬、比叡山を経由して坂本、琵琶湖に至る観光ルート「山と水と光の廻廊〈比叡山・琵琶湖〉」さらに活性化させ、その道しるべとなるよう、2018年3月21日から運行を開始しました。

1925年から比叡山への京都側の足として、多くの観光客に利用されてきた叡山本線が新たな歴史を作ったのです。ひえいは、叡山本線の京都の出町柳から比叡山のある八瀬比叡山口を往復しています。今回はひえいの見どころを説明します。



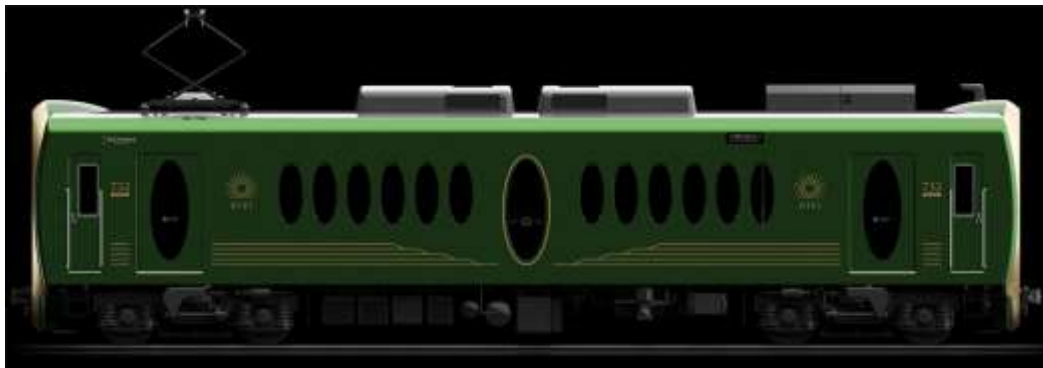
KEIHAN ひえいホームページ (eizandensha.co.jp)より引用



叡山電鉄「ひえい」ホームページ(eizandensha.co.jp/hiei/)より引用

3.車両デザインとロゴマーク

(1)車両デザイン



叡山電鉄「ひえい」ホームページ(eizandensha.co.jp/hiei)より引用

叡山電車の2つの終着点にある「比叡山」と「鞍馬山」の持つ荘厳で神聖な空気感や深淵な歴史、木漏れ日や静寂な空間から感じる大地の気パワーなど、「神秘的な雰囲気」や「時空を超えたダイナミズム」といったイメージを「楕円」というモチーフで大胆に表現しています。また、側面に配されたストライプは比叡山の山霧をイメージしています。

(2)ロゴマーク



叡山電鉄「ひえい」ホームページ(eizandensha.co.jp/hiei)より引用

Spiritual Energy(スピリチュアル・エナジー)

大地から放出される気のパワーと灯火を抽象化しています。

4.車内

座席はゆったりとしたバケットシートを採用しています。シートには「神秘的な力・気」「御山の等高線」「歴史の積層」をイメージしたデザインを施しています。また、優先座席には茶系のヘッドレストを採用し、直上の吊手を長くすることで、識別を容易にしているほか八瀬比叡山口駅方のドア付近のいすは折り畳み式として、車いす・ベビーカースペースとすることができるなど、バリアフリーにも対応しています。



叡山電鉄「ひえい」車両の仕様について(eizandensha.co.jp/about/hiei)より引用

5.観光スポット

(1)比叡山延暦寺



叡山電鉄「ひえい」ホームページ(eizandensha.co.jp/hiei)より引用

冒頭でも説明しましたが、最澄が天台宗を開いた総本山です。昔の著名な僧の多くが、若い日にここで修業したことから、日本仏教の母山とも称されています。

(2)瑠璃光院



叡山電鉄ホームページ(eizandensha.co.jp/hiei)より引用

数寄屋造りの建物と見事な名庭は、春と秋にのみ特別拝観が可能です。春は青もみじ、秋は紅葉が美しいお寺です。日本式蒸し風呂の原型「八瀬のかま風呂」も希少な遺構です。

6.さいごに

いかがでしょうか。この「ひえい」を機に比叡山へぜひとも行ってみてください。一度いった方も、比叡山の新たな魅力を見つけられるのではないのでしょうか。

7.参考文献

叡山電鉄「ひえい」ホームページ eizandensha.co.jp/hiei